

恋する川柳物語かわら版



其の二十五 第二十四回「恋する川柳」―【秋】は梨(話)

ふくらむ川柳編 ― の応募作品集です。恋する気持ちを詠む川柳「恋する川柳」秋編のお題は「梨(なし)」、『梨(なし)』という言葉を句に詠み込むというお約束でしたね。

お得意?の私事ですが、ここごく最近、色々と旅する機会に恵まれています。兵庫県や岡山県、愛媛県などと西へ東へ南へと愛車のルパン号(自称)と共に神出鬼没なコンビでお邪魔しております。長いドライブの中で景色を眺めながら私がよく思うのが、「確かこの県は、恋する川柳の〇〇さんの住んでいらっしやる所だったな」ということです。一度もお会いしたことのない方がほとんどなのに、そう思うと不思議とその県に親近感を感じてくるものなんですよね。

みなさまと交わす川柳一句一句が、県境を越えて日本全国と私たちをつないで下さっている:日本語っていいな。川柳っていいな。今年は珍しく「思索にふける」秋となった担当者でした。みなさまの秋はいかがでしたでしょうか??

ってなことで、ほな、今日もぼちぼち見てつかあさいな。

【応募作品一覧】

◆ くちなしの 香りにそっと くちづけを

◆ 梨・柿・芋と おいしい秋が 攻めてくる(鳥取市)

◆ 美味しい梨 つられて砂丘 今日も越え

◆ 近親の みなおだやかに 遺産なし(P・Nいのさん)

◆ 告白し 見事に撃沈 悔いはなし

◆ 洋ナシの 君のお腹に 用はなし(P・Nふっきー)

◆ “去りゆく者に 感謝して”と聞き 迷いナシ

(P・N橘 舞衣)

◆ 夕焼けに 悲しい話 溶けてゆく(P・N矢車草)

◆ 成し遂げる 事なく終えた 秋の恋
(P・N小桜なちゅちゃん)

◆ もぎたての 梨かじり合う 老の恋

◆ 昔話 盛り上がります 老人会(P・N大和の雨蛙)

◆ 投げた文 ナシのつぶてで 返事こず(宇治市)

◆ 八雲立つ 出雲の恋は なしつぶて

◆ ラ・フランス 淡きエロスも 人の妻(P・N茶々丸)

◆ 名産の 梨をほをばる 老夫婦

◆ 道の駅 無い物なしの 品揃い(鳥取市)

◆ 年収の 話へすぐに 飛んでゆく

◆ 六ヶ月 デートで話し合い 決める
(P・N岩美のおぼっちゃま)

◆ 違反なし 事故なし かわはらに着いた(P・N石花菜)

◆ 何気なく 女の話に 割り込んだ

◆ 地獄から はなし合いする 事にする(鳥取市)

◆ かにかくに 酔えば昭和の 話しする

◆ 天高く カマキリ色の 恋をした(滋賀県)

◆ バス旅行 土産なしでは 飯もなし

◆ 曲り角 化粧なしでは 歩けない(P・N賞罰なし)

◆ 太陽を たっぷり食べた うまい梨(兵庫県)

◆ 枯落葉 ふと空しさに 涙ぐみ(P・N小星)

◆ あれとそれで 話が弾む 老夫婦

◆ 継ぐ人もなし 淋しいぼくの お茶道具(伊丹市)

◆ 遠距離で 瞳の奥に 言葉なし(P・Nせんちゃん)

◆ 梨の香に 誘われ出向く 河原町

◆ 初恋の 甘い香りの 二十世紀 (瀬戸内市)

◆ 悲しくて 青い月夜に 涙いっぱい (P・Nとまと)

◆ そりゃなしだ ナシどろぼうが ナシ御殿

◆ 夕暮れの イチョウ並木で 指からめ (P・Nよこべー)

◆ 二十世紀 歴史か梨か 子等迷い (大阪府)

◆ 手作りの 甘い二人の 梨のジャム

◆ どれも好き 新種の梨が 味競う (P・N最能美湯参)

◆ 悲しみを 梨の甘さで やわらげる

◆ かじりつく 大きな梨に 紅葉の手 (P・Nやまちゃん)

◆ 初出荷 乙女も肥ゆる 甘い梨 (P・N睦言 (荷車会))

◆ いい話 聞いて心の 糧にする (P・N安眠 (荷車会))

◆ 医者が言う 家族の方へ 話しあり

(P・N 写楽 (荷車会))

◆ とつとりの 顔になる梨 都会に出

(P・N 泪の操 (荷車会))

◆ 昔ばなし 酒の肴に 酒を呑む (P・N 日ノ出 (荷車会))

◆ 梨甘し そっと口付け 選果場裏

◆ 梨を剥く 二人の夢の 隠れ宿 (兵庫県)

◆ 恋しいと 独り占めする それ無し (梨)よ

(P・N次男坊)

◆ 君の手を そっと離して 消えた虹 (P・N 琴音翼)

◆ 妻になり 梨を食べさす つまようじ (P・N夕顔)

◆ チョコレート 今年もなしで 悔し泣き

(P・Nおさぼう)

◆ いつ会える 梨のつぶてに 恋募り

(P・Nめるめるめーら)

◆ 恋すれば 用もなしとて メールして (P・N恋小五郎)

◆ 欲しいもの なしとは言えぬ ペア二日

(P・Nまーべい)

◆ 脈は無し 自分に打ち勝つ 片想い (P・Nハリー)

◆ 幸水も 二十世紀も 食べ満ちる

◆ 幸水と 二十世紀の 梨くらべ (P・Nもも)

◆ ときめいた 歯が浮くような 話し無し

(P・N おおつきらい)

◆ 想い人 愛する気持ち ゴールなし (P・Nミニロック)

◆ 梨食えば 初恋の味 甘酸っぱい (P・Nよつは)

◆ 運動会 君より速き 娘なし

◆ 梨食えば 砂丘広がる 風の音 (P・Nたかさま)

◆ 梨のつぶて 20世紀 我が息子 (P・Nさくら)

◆ 淡緑 二十世紀の モナリザ似 (P・Nチーズ)

◆ 秋風は 恋に恋する 気にさせる (P・Nたけ)

◆ 取り成して 猫を両手に 抱いて寝る (P・N三つ柏)

◆ ミステリーツアーでしようか この恋は

◆ 人恋し 秋が深まり ゆくたびに (P・Nすみれ)

◆ 秋香る 銀杏並木に 手をつなぐ

◆ 想う恋 虫の音遠く 秋がゆく (P・Nれんこ)

- ◆ 全国に 話のタネと 梨送る (P・N みっちゃん)
- ◆ 恋しても 金無し 職無し 意気地無し (P・N リリー)
- ◆ 怒らせて 音沙汰無しで 银杏散る (P・N 遅刻魔)
- ◆ よく噛めば 二十世紀梨 味が出る (東伯郡)
- ◆ 汗かいて 皆で食べる 梨うまし (P・N よし子)
- ◆ 梨を剥く きみの背中に 好きと書く (P・N 夏海)
- ◆ 秋の恋 梨のつぶてで 無しになる (P・N 春爺)
- ◆ 梨齧る じいちゃん歯なし 総入れ歯
- ◆ 梨の下 身の上バナシ 語り合う (P・N ポンタロウ)
- ◆ 初デート 「やくきいも〜」に 走る君
(P・N そんな君に惚れ直したよ)
- ◆ 梨もぎの 季節に惚ぶる 祖母の貌
- ◆ 話など せずとも笑みで 夫婦也 (P・N 木之影)
- ◆ ラ・フランス あの日恋した エトランゼ
- ◆ ハ雲立つ 出雲の恋や なしつぶて (P・N 茶々丸)
- ◆ 二十世紀 仄かな黄色 ロマン秘め
- ◆ 思い出は 梨の香りと 君の声 (P・N 瑠璃)
- ◆ コンパにて 新酒コップで 飲んだ娘 (こ)
- ◆ 趣味会の 先生なので 恋はなし (P・N たたらん)
- ◆ 秋風が 君の思い出 連れて来る
- ◆ 月見ても 梨を食べても 君のこと (P・N みぢんこ)
- ◆ 期待した あの娘とコンパ 無し話(ばな)に
- ◆ 熟す梨 固い梨好き いと悲し (P・N 未吹 明)

- ◆ 梨の皮 おいて長さを 自慢する
- ◆ 逢引の 余熱を冷ます 秋の風 (P・N 澤磨育)
- ◆ 貴方から お話し聴ける だけでいい
- ◆ 欲しいのは 君の笑顔と お話しと (P・N 翔のんまな)
- ◆ 梨を手に 話に夢中 食べ忘れ
- ◆ 恋だもの 甘くて丸い 梨の味 (P・N 変人)
- ◆ 恋しいと メールに返信 ナシのまま
- ◆ 元カノの メールを消去 夢もナシ
(P・N 金砂郷の鴨ちゃん)
- ◆ 手をひかれすこし早めのもみじ頬
- ◆ 瑞々しい 梨むく君の手を見る目 (P・N 藻猫)
- ◆ 夏の恋 フラれてむなし 秋の海 (愛媛県)
- ◆ 失恋も 河原の梨で みずみずし
- ◆ 老いらくの 恋に破れて 梨をむく (P・N クジラ)
- ◆ 好きだから あなたと話しさえ 出来ぬ
- ◆ 赤い糸 離したくない あなたです (P・N 西村みなみ)
- ◆ 恋話 去りてわが身の 秋空し (P・N ひぐらし)
- ◆ 梨を切る 彼女の分は 大きめに
- ◆ 下心 無しと言われて 梨貫う (P・N ヒデじい)
- ◆ お話を 重ねるうちに 恋に落ち (P・N 春舟)
- ◆ 砂像見て ラクダに乗って 憂いなし
- ◆ 好きだよと 送る念力 答え無し
(P・N よったんぼうや)
- ◆ 世の中は ナッシングベター ザンラブだ
(P・N 恋に恋する還暦マン)

◆分かれても 引っ切り無しに メールする
(P・Nみくちゃん)

◆握る手に 今日は無しよと 秋の空 (P・N氷川の杜)

◆四十六時中 愛をつぎ込み 惜しみなし

◆初心者が こなし切れない 恋の技 (P・Nしげのり)

◆秋深く 悲しい恋の ものがたり (P・Nとんちゃん)

◆届かない 甘く悲しい 恋わずらい (P・N寛寛)

◆此処だけの はなしで乗った 玉の輿 (P・N奴だこ)

◆変化ナシ あと一押しを 待っている

◆異常ナシ 女房が握る 羅針盤 (P・Nうずまき君)

◆梨食べて 恋の実りも 待っている (P・N散歩)

◆幼な児が 梨に顔描き 得意顔

◆紅葉を 恋する秋の 一人旅 (P・N伸二郎)

◆枯葉散る 頃に振られて そのまんま

◆そりゃなしだ 近いうちでは 足りぬ金 (P・N仁)

◆死ぬ前に 一度は食べたい 高級梨 (P・Nかげろう)

◆妻がむく 梨の香りで 惚れ直し (愛知県)

◆美味しい秋 しばし恋など 後回し (P・Nぽっち)

◆嫌なこと 一言もなし 君が好き (P・N昇柳)

◆初デート 思い出の味 ナシグリーン (P・N紫苑)

◆けなしても やっぱり好きが かくせない
(P・N完熟きのこ)

◆アキもせず あなたの為に 梨を剥く (P・N紫敷布)

◆人生の 実りの秋に 恋話し (P・N好日郎)

◆還暦も 妻への恋は 変わらなし (河原梨)

◆仕方ナシ ついて来たのと 真珠婚 (P・Nらくちゃん)

◆口元に 梨差し出して はいアーン

◆唇に ほのかに梨の 香がのこり (P・Nかたおもい)

◆ラ・フランス どなれ聞けば ようなしと
(P・N悠々愛々)

◆子育てで 20世紀の 型はなし

◆すかん奴 なしのつぶてで 返事する (P・N湯たんぼ)

◆何もなし ただ君が側に 居てるだけ

◆実らない 三角関係 なし崩し
(P・N働き蜂ちえちゃん)

◆あなたなし そんな人生 つまらない
(P・Nしかおすこ)

◆秋の海 人に云えない 人と逢い (P・Nだじゃれまん)

◆母こなし 妻をもこなす 身を褒める (P・Nほづ)

◆この梨は 前世期から 全盛期 (P・Nお酢)

◆今はなし 水水しさと うきうきが

◆クリスマス 目ざした恋は 深さなし
(P・Nカエチックン)

◆恋焦がれ あなた以外は 目にはナシ

◆転勤だ 彼女に告る 待ったナシ (P・Nおじゃすか)

◆色染めて 重ねる逢瀬 実り無し (P・N秋ナスビ)

◆夏の恋 秋にはなしの つぶてです (P・Nとなみん)

◆おネガイよ 悲しい話(梨)は 無し(梨)にして
(P・Nはは)

◆おいしいが 食べたらかかん その話

◆どたん場で 舌出す秋の 恋心 (P・Nぶちの駄馬)

◆きっと嘘 別れ話が 朱に染まり

◆コスモスさん ごめんね恋の 花占い (P・N八十日目)

◆梨好きが 梨に呼ばれて 越す産地 (P・N清少納言)

◆想う人 恋文送って 悔いはなし

◆好きな人 年の差なんて 関係なし (P・N雅)

◆片想い 声掛けようか 勇気なし (P・N高塔山の河童)

◆「逢いたい」と おなしくひびく 秋の空

◆名無しでも 想いは伝わる ラブレター
(P・N PON5)

◆手放しで マツタケご飯 喜んで

◆思い出の 小さな話 夕暮れに (P・N guamkai)

◆彼遠く 梨の礫で 月を見る (P・Nあちあなん)

◆おなしいな 貢ぎまくって 振られたよ
(P・N元善光寺)

◆何気ない 話に時間 取られがち

◆山の有る 山梨産の 梨を剥く
(P・Nクンタ・キンテ・ジャパン)

◆赤い糸 切られる無しで とも白髪

◆梨を食い 手放し喜ぶ 話好き (P・N川流れ乾太)

◆世界中 笑顔の嫌いな 人はなし (P・N清詩薫)

◆今もなお 無しのつぶての キミ恋し (P・Nやっこ)

◆満腹で 大人しくなる お爺ちゃん (P・N黄くま)

◆あの人へ 気持ち素直に 待ったなし (P・N直球勝負)

◆君なしで 生きていけない 甘いなあ
(P・N無しづくめ)

◆今は亡き 原木想い 梨かじる (P・N二十世紀が丘)

◆仏壇の なしに笑顔の 額の母

◆介護風呂 流す背中も 今はなし (P・Nこうじい)

◆あの人を けなして布団に もぐる夜

◆君とする 馬鹿話だって 宝もの (P・Nよく そろく)

◆悲しいな 君の心と すれ違い (P・Nゆうな)

◆あの月を 独りで見ている 我悲し (P・N武蔵浦和)

◆君の手を はなしたくない 帰り道 (P・Nだだ)

◆話しても くない君の 影にキス

◆空しいと 思いながらも 追いかける (P・Nねぎ坊主)

◆夏の恋 進展なしで 秋が来た (P・N無無)

◆梨畑 二人で歩く 散歩道 (P・Nワタミツ)

◆梨のような ジューシーな恋に あこがれる

◆梨ひとつ 窓辺において 君を待つ (P・Nゆきこ)

◆迎えられ また送られし 秋の駅

◆お話が 尽きぬ二人の 別れ際 (P・Nチュン子すずめ)

◆あの時に けなし倒した 君が好き (P・N船岡五郎)

◆ 梨のよう 付き合い始めは みずみずしい
(P・N sasao889)

◆ 片想い 書けど沙汰梨 ラブレター
(P・N 失恋レストラン)

◆ くるくると 梨むく白い 手に惚れる
◆ 恋人の 話になると 輝く眼 (P・N 颯爽)

◆ これからは あなたなしでは 暮らせない
(P・N 和辛子)

◆ 梨狩りで みずみずしさが 戻る恋
◆ 彼の声 デザートにして 月見酒 (P・N 真昼)

◆ 月はなし 団子山盛り 笑顔添え (P・N 美月)

◆ 秋深し ココアのように 染みる恋
◆ こころなし 私の心が 頬染める (P・N あーさま)

◆ 梨贈る ハートマークの 文添えて (P・N れんじい)

◆ 一目惚れ 膨らみっぱなし 恋心 (P・N 安谷惚太郎)

◆ プロポーズ 受けて梨剥く 彼の部屋 (P・N 青い鳥)

◆ 秋風に まぎれ飛び交う 赤い糸
◆ 思い出に 似た手触りの 梨がある (P・N 汐海 岬)

◆ 秋の夜は 君の話で 癒されたい (P・N ザ・落花生)

◆ 梨の様な みずみずしさの 肌目指し
(P・N 日本の救世主「ぬこ」)

◆ 遠くても 悲しからずや 愛あればこそ
(P・N せんちゃん)

◆ 恋したい 食いたい秋に まだ無職
◆ 恋語る 秋の夜長の 長電話 (P・N かきくけ子)

【番外編】

◆ 薬指だけが 知ってる プロポーズ (P・N 子夏)

◆ 慕う時 星もハートに してみせる
◆ 片思い ドラマの世界が 現実に (P・N 虎次郎)

◆ 湖面燃ゆ 心に飛び火 恋心 (P・N ひーらー)

◆ 日の落ちて 貴男を想う 散歩道
(P・N 小桜なちゅちゃん)

◆ 避けながら 目の隅に置く 恋姿
◆ 終わりだね 口に出さぬが 決意する (P・N 雪子)

◆ 売ってるか 恋を求めて 道の駅 (大阪府)

◆ 恋思ひ すぎて向き合う 二人膳 (東伯郡)

◆ 好きですと 言えずに今年も さようなら
(P・N おさぼう)

◆ 君の名を 削除せねばと 知り消せぬ (P・N もくず)

◆ 去っていく あなた私は まだ熱い (P・N よし子)

◆ ひと夏の 恋は日焼けと 共に消え (P・N となみん)

◆ 時々は 感じてみたい ドキドキを (P・N はは)

◆ 恋しいと 思う気持ちに 恋してた (P・N 雄之介)

◆ コスモスに 思わず聞いた 来る？来ない？
(P・N 薬寺村池丸)

◆ 秋なのに 別れ話は 悲しすぎ

◆ 秋の夜は 君の話で 癒されたい (P・N ザ・落花生)

◆ 梨の様な みずみずしさの 肌目指し
(P・N 日本の救世主「ぬこ」)

◆ 梨贈る ハートマークの 文添えて (P・N れんじい)

◆ 一目惚れ 膨らみっぱなし 恋心 (P・N 安谷惚太郎)

◆ プロポーズ 受けて梨剥く 彼の部屋 (P・N 青い鳥)

◆ 秋風に まぎれ飛び交う 赤い糸
◆ 思い出に 似た手触りの 梨がある (P・N 汐海 岬)

◆ 秋の夜は 君の話で 癒されたい (P・N ザ・落花生)

◆ 梨の様な みずみずしさの 肌目指し
(P・N 日本の救世主「ぬこ」)

◆おすめ達 生まれてくれて ありがとう
(P・Nしんらん)

◆かわはらの はかなき恋の つづれ折
(P・Nすふいんくす)

◆話すこと 無くてもいいの あなた好き (P・Nぼっち)

【特別賞】

◆踏んばって 梨をもぎ取る もみじの手 (P・N矢車草)

《一言》一生懸命な幼児の姿がたまらなく可愛いですね。

◆梨サクリ 恋が始まる 予感する (P・Nまりりん)

《一言》「サクリ」が何とも心地よく響く一句でした。

◆韓ドラで 梨の薬膳 知りて買う (P・Nよし子)

《一言》早速ネットで調べました！サラダ食べたい！！

◆初恋が 笑いばなしに とけてゆく (P・N銀次郎)

《一言》過ぎし日の初恋、こんな風に語りたいものです。

◆秋だもの ヒトに恋してられないわ

(P・Nすべての秋スイーツは俺に微笑む)

《一言》世の女性全てが共感できるまさに痛快な一句☆

◆恋をして 食欲なしと おかわりし (P・N完熟きのこ)

《一言》又々女性ならではの性質を見事に捉えています。

◆梨食えば 入れ歯鳴るなり 満腹爺 (P・N悠々愛々)

《一言》いつまでもこんな楽しい爺ちゃんできて下さい。

◆不器用な 話し方・でも そこが、好き (P・Nお酢)

《一言》句読点に大原麗子さんの様な色っぽさを感じて。

◆こっちゃんと お話しっぱい してきたよ

(P・Nまちゃまちゃママ)

《一言》子どもの恋心って何でこんなに可愛いのかなあ。

◆手をつなげ 腕を組めよと 言う紅葉 (P・Nれんじい)

《一言》こんなに頼もしい大勢の応援団がいたなんて。

※以上十名様には、秀句としてラッピング封筒十ベアコ
レクションストラップをお贈りします。また、今回も優秀
な作品が多く、惜しくも特別賞に届かなかった次の三名の

方の作品も、プチ特別賞としまして、ラッピング封筒をお
届けします。

◆古日記 もみじ挟んだ 遠い恋 (P・N清少納言)

◆休みなし 働き者は 妻の口 (P・N清詩薫)

◆枯葉踏み 別れ話に 蓋をする (P・Nまりこ)

なお、紙面のスペース上、多数にわたるご応募の方につき
ましては、掲載を二句までとさせて頂いておられます。
悪しからずご了承ください。また、作品にペンネーム(P・
N)の付していないものについては、宛先のみご紹介させて
いただいています。

また、抽選の結果発表については、発送をもって代え
させて頂きます。次回の【冬】「恋する川柳」編は十二
月に募集しますので、お見逃しなく☆



by. KISAKI HIMEKO
(郷土神話観光
コーディネーター
☆)

去る11月17日(土)より、2年程温
め続けていた新発想の柿のお菓子を
ようやく世に送り出すことができました
(と言いつつも、まだまだ地域内
に限られますが…^^;)。西条柿のお菓
子は数あれど、その皮を使っている所
はなかなかないのではないでしょ
うか?原料の一部となる「柿砂糖」から
あまりに手間暇が掛かり、まだまだ数
多くは作れませんが、いつかみなさま
の町の物産展などでお目に掛かれる
日が来るよう頑張っていま〜す☆